

0. はじめに

本追跡調査は、地域結集型共同研究事業（以下、結集型事業）の平成 10 年度発足地域である北海道、山形県、宮城県および神奈川県 の 4 地域を対象として、研究成果の発展・活用状況、新技術・新産業等の創出状況および地域 COE 構築の状況等に関して、事業終了後約 3 年を経過したフェーズⅢの現状を明らかにするために実施したものである。

本調査報告書の取りまとめにあたっては、事業終了報告書や事後評価報告書その他の文献調査のほか、行政機関、中核機関、研究機関等の関係者を対象にしたアンケート調査や面談調査を行い、それらの結果を整理・分析した。

アンケート調査および面談調査においては、結集型事業という一つの事業の中で、基礎から応用にわたる幅広い研究者をはじめとして、新技術エージェントや知財担当者等バックグラウンドの異なるメンバーが特定の目的に向かって一つに結集し、互いが刺激を受けながら地域 COE の構築に向かえたことが高く評価されていた。これは、例えば、研究者であれば、基礎から応用にわたる幅広い研究者と議論を重ねることで自らの研究テーマに関する新たな視点や考え方が養われたり、また、研究という枠を一步踏み出して、経営や知財など大局的な観点が醸成されたといった人材育成の効果を、各研究者自身が実感として感じ取ったからに他ならない。

また、結集型事業に携わったことにより、そこで培った実績をもとに、現在、新たな分野・所属で活躍することができているといったキャリアアップの効果や、当時形成された人材や組織間のネットワークが今なお活用され、それが有機的に機能しているといったネットワーク形成の効果なども高く評価されていた。あわせて、地域単独では推進が困難であった産学官の共同研究による新技術創出や新商品開発が、当事業を通じて実現できたこと、また、こうした新技術創出や新商品開発の実現によって、地域 COE の構築が一步ずつ進みつつあること等が、行政機関や中核機関等からも高く評価されていた。

さらに、今回、追跡調査の枠組みの中で新たに実施した定量評価結果からも、例えば、当該結集型事業がもたらした経済的インパクト¹として、以下のような試算結果が現れており、経済的な側面からみても、結集型事業がもたらしたインパクトの大きさが評価される結果となっている。

- | | | |
|-------|-------------|--------------------------|
| ・北海道 | ＝5,966（百万円） | <参考：事業実施～現在まで＝3,695 百万円> |
| ・山形県 | ＝2,820（百万円） | <参考：事業実施～現在まで＝2,711 百万円> |
| ・宮城県 | ＝5,901（百万円） | <参考：事業実施～現在まで＝3,150 百万円> |
| ・神奈川県 | ＝3,678（百万円） | <参考：事業実施～現在まで＝3,294 百万円> |

（注）

これらの数値は、各地域の取り組みのごく一部を、同一の尺度で貨幣換算しただけであり、地域の取り組みの全てが当該数値に表されている訳ではないことに留意する必要がある（上記で取り上げた人材育成の効果や、事業の成果を通じて国民に夢や希望を与えるといった効果等、重要ではあるものの定量的な評価が困難なものも多く、これらについては、本調査の中では定性的な評価に留まっている）。また、実際には地域毎の分野の違いや事業特性の違い等を考慮すべきものであり、あくまでも参考値として貨幣換算したに過ぎない点にも留意する必要がある。

¹ 当該結集型事業に関連した活動により発生する金銭移動の総額を示す（なお、一部の項目については、2015 年までに発生すると考えられる金銭移動分を含んでいる）。詳細については、2.1.10 節参照のこと。

しかしながら、本格的な地域 COE の構築（地域経済の活性化への貢献）という目標と照らし合わせた場合には、現時点においてはその実現がまだ十分であるとは言い難いのも事実である。ただし、報告書本文で後述するとおり、結集型事業終了後の研究テーマのいくつかは、フェーズⅢにおいても、当初想定していた範囲を超えて新しい展開をしている事例が実際に確認されたこと、また、行政機関や中核機関を中心として、各地域とも、地域 COE の構築に向けた継続的な取り組みと独自の工夫によって鋭意努力が行われていること等を考えると、着実に、地域 COE の構築という目標に向かい進みつつあることが確認出来た。今後は、関係者による継続的な努力によって、結集型事業の成果をより大きく確かなものにし、地域に根付かせていくことが求められると言える。

地域 COE の構築は、新技術・新産業の創出と並んで本結集型事業が地域に期待するところである。この点に関しては、地域による差はあるものの、研究施設や設備などのハード面と、研究者のネットワークや情報交換・技術広報を中心とするソフト面の、両面における整備が着実に進みつつある。結集型事業を契機として、既存の研究開発セクターの機能活性化を図りつつ、研究成果の蓄積・継承・高度化を通して社会から期待される地域 COE の構築が実現されることを期待したい。本追跡調査では、各地域における成功ポイントや改善点等に関する情報の収集もあわせて行っている。こうした情報を各地域が共有し、それらを自らの地域にフィードバックしていくことで、フェーズⅢの更なる展開を期待したい。